

龍馬と学ぼう

日商簿記 1 級

# 日商簿記 1 級フリーテキスト講座

## <工業簿記 3> 労務費

全 5 枚



お持ちのテキストの該当の章を読んだうえで視聴して下さい

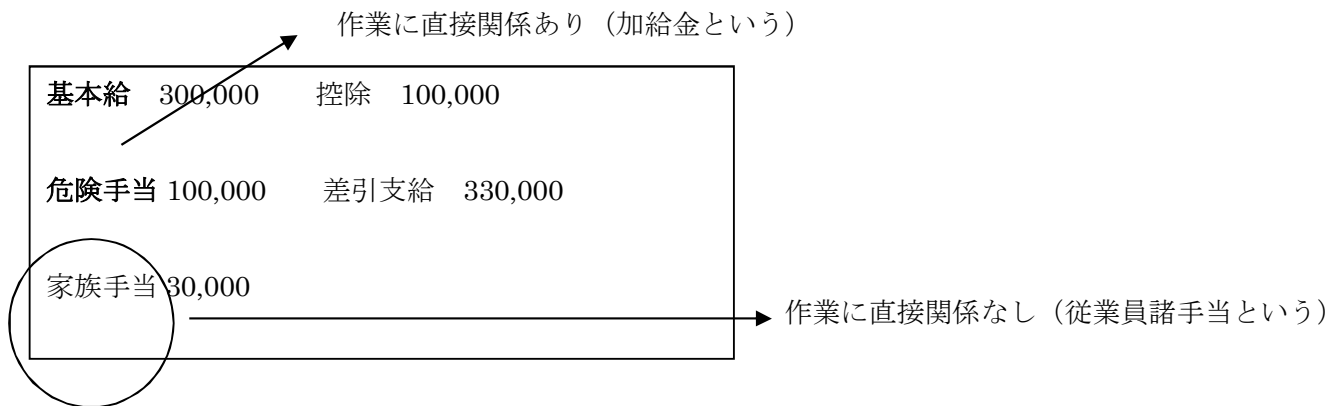
弥生カレッジCMCのフリーテキスト講座（無料動画で公開中）

日商1級の工業簿記・原価計算は2級の知識を万全にしてからご視聴下さい

もしも自信がない場合は、日商2級フリーテキスト講座の労務費を視聴してからご覧ください

# 労務費会計

給料明細書



賃金	400,000	現金	330,000
従業員諸手当	30,000	預り金	100,000

製造間接費へ

仕掛品 400,000 / 賃金 430,000  
 製造間接費 30,000

消費賃率の計算 (間接工の消費賃率は通常計算しない→日報で個別管理しないから)

直接工賃金 (直接作業分+間接作業分)

就業時間 (直接作業+間接作業+手待)

<例題>

下記の前年実績から直接工の予定配賦率を求めよ

直接作業分 5,000,000 円    間接作業分 1,000,000  
 直接作業時間 1,000 時間    間接作業時間 250 時間

$$6,000,000 \div 1,250 = 4,800 \text{ 円}$$



定時間外作業手当の計算（資料の見方がわかりにくい）

<例題>

直接工の予定賃率は 900 円である。4 月分の日報集計は下記の通りである。  
 定時間外作業手当は、その時間数に予定平均賃率の 50% を乗じて計算する

直接作業時間	: 1,400 時間
間接作業時間	: 300 時間
正常手待時間	: 100 時間
合計	: 1,800 時間

定時間内作業	: 1,720 時間
4/1~20	1,200 時間
4/21~30	520 時間
定時間外作業	: 80 時間
4/29,30	80 時間

当月（4月）の直接工への賃金支払額は 1,520 千円、3 月末未払額は 450 千円、4 月末の未払額は予定賃率で計算する

（未払額の計算）

$$600 \text{ 時間} \times 900 + 80 \text{ 時間} \times 900 \times 0.5 =$$

1,520,000	450,000
540	直接 1,260 間接 360
差異 10	
36	36

予定消費額 1,656,00

まずは単純に直接時間と間接時間における  
 <直接時間  $1,400 \times 900 = 1,260,000$   
 <間接時間  $400 \times 900 = 360,000$   
 後は割増分のみ計算する  
 <割増  $900 \times 0.5 \times 80 = 36,000$

予定配賦 仕掛品 1,260,000 / 賃金 1,650,000  
 製造間接費 396,000

実際配賦額  $1,520,000 + 540,000 + 36,000 - (450,000) = 1,646,000$

差異 賃金 4 / 差異 4 (有利差異)



(参考)

間接工の賃金は何故予定配賦しないのか？

そもそも予定配賦をする理由を考えて下さい。

「計算の迅速化」「単位原価の安定性」この2点ですね。という事は仕掛品勘定の中で原価計算が行われる事を考えれば、製造間接費自体を予定配賦すれば2点の目標は達成できる訳です。

間接工賃金は実際発生額を製造間接費実際額として差異分析の対象に入れるのです。

ただ、あくまでも受験簿記という事で考えて下さい。直接工と間接工の区分のない会社では、すべての工員の賃金を予定配賦し、結果として間接工の賃金が予定配賦されているケースは存在します

以下の過去問を実施して下さい

日商簿記135回 工業簿記の労務費部分 [資料(4)(5)]

全経簿記上級167回 工業簿記 問題2

〃 171回 工業簿記 資料2.(2)

CMCでは過去問演習の為に、「過去問ゼミ」を販売しています。

本試験対策にぜひご利用ください